

## 診療所の立場から

医療法人同愛会 新堂診療所

理事長・所長 山田和紀

### 新堂診療所の取り組みについて

#### 1. 新堂診療所の設立から今日までの経過

##### 設立趣旨

「新堂診療所は、長年の部落差別によって生命と健康をむしばまれ、病人にさえ医療の手が差し伸べられないという差別の実態の中から、それらを解消する事を目的に設立された」

##### 《第1期》地区住民一人ひとりの医療を受ける権利を保障する時代

戦前～診療所建設～同和対策事業終焉

同和対策事業

一部負担金の減免（保健増進事業）

国民健康保険料の減免

診療所への運営補助

##### 《第2期》「地区」の健康を守る取り組みの時代

1960年代後半～

保健所保健婦駐在事業

集団検診（「地区」の受診率アップ）

##### 《第3期》同和対策事業から一般対策への移行の時代

1990年代～

集団検診事業の廃止（「老健法基本健康診査」を利用した個別受診）

多科目化／小病院を目指す

診療圏の拡大

医療・福祉サービスの統一的提供を模索

介護保険外サービスとの連携

街かどデイハウス「ひまわり」・給食宅配サービス「たんぽぽ」

##### 《第4期》（現在）ポスト同和対策時代

< 民間一医療機関として、医療・保健・福祉の一角を担う時代 >

2002年～

「ケアプランセンター」設置

「デイサービスセンター」設置予定

## 2. 新堂診療所をとりまく現状

- ・ 地区内にも開業医が進出してくる時代
- ・ 在宅医療の進展
- ・ 補助金の廃止を予定にいった長期経営

## 3. これからの課題

理念：「患者様の人権を尊重し、患者様が地域で居宅で安心して生活できるよう、医療・保健・福祉サービスを統一して提供できる、身近で親しみのある診療所」

### 【具体的指針】

1. 行政依存体質からの脱却と経営の自立に向けた意識改革
2. 「同和地区」から「地域」へ
3. 周辺医療機関との連携
4. 健康教室開催による最新医療情報の提供と患者様との交流
5. 生活福祉相談の実施

医療／福祉：医療・福祉一体となった、小中校区程度を視野にいった地域限定のきめ細かいサービスを提供する。

保健：市全体の中での位置づけ 「民間医療機関」として行政サービスの一角を担い、  
重要な位置を占めること。

### 参考：新堂診療所年表

1922年	全国水平社創立（3月）・河内水平社創立（7月）
33年	無料診療所開設
37年	トラコーマ治療開始
	戦争中、自然消滅

- |       |                         |
|-------|-------------------------|
| 1957年 | トラコーマ診療開始               |
| 60年   | 新堂診療所開所                 |
| 61年   | 医療法人同愛会設立               |
| 68年   | 集団検診事業開始                |
| 70年   | 建替え                     |
| 83年   | 阪南中央病院の応援で小児科・外科開設      |
| 89年   | 精神科開設                   |
| 91年   | 建替                      |
|       | 近畿大学医学部の応援で眼科開設、理学診療科開設 |
|       | 機能訓練事業開始                |
|       | 清水町会集団検診事業開始            |
| 98年   | 同和事業による集団検診事業返上         |
|       | 老健法基本健康診査による検診事業開始      |
|       | 街かどデイハウス事業「ひまわり」開始      |
|       | 給食宅配サービス「たんぼぼ」開始        |
| 2000年 | 介護保険スタート、機能訓練事業終了       |
| 02年   | 整形外科、「ケアプランセンター」開設      |